

# 四季だより

冬号 2025 年 1 月 (第 97 号)

病院理念 私たちは地域の皆様の  
健康と暮らしを支えるために力を尽くします



## 新年の御挨拶

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては益々御盛栄のこととお慶び申し上げます。

5年前に始まったコロナ騒動は一見収束したかに見えましたが、実は現在も局所的に流行しています。その他インフルエンザ、マイコプラズマ肺炎の流行、さらに新興感染症の報告もあり、私たちは常に感染症からの脅威にさらされています。人が多く集まる場所では引き続きマスク着用が無難といえるでしょう。



さて、安芸津病院ですが、本年2月に待望のMRIが設置されます。整形外科においては欠くべからざる機器であり、診断能力は格段に向上します。また内視鏡機器、CT 機器も充実しており、内科・外科的疾患も引き続きしっかりと対応して参ります。

昨年は岸田首相の退任、石破首相の誕生、および解散総選挙における自民党の敗北など、政治的には大きな変動がありました。海外では各地で紛争が起きており、アメリカでは自国優先主義のトランプ大統領が返り咲きました。混沌とした世界において、平和な国際社会の実現と日本社会の発展が望まれるところです。一方、スポーツでは大谷翔平選手の所属するドジャースがワールドシリーズを制覇し、大きな感動を与えてくれました。カープの首位陥落、まさかのBクラスは想定外でしたが、今年は頑張ってくれるはずです！みんなで応援しましょう！



今年も安芸津病院を皆様の健康管理にお役立ていただけますなら幸いと存じます。

院長 後藤 俊彦





## MRI 装置（オープン型）稼働のご案内

患者さまから強い要望がございました MRI 装置が、本年 2 月から稼働を開始します。

当院に導入される MRI 装置は、富士フイルムメディカル社製 AIRIS Vento Plus です。この装置は、最新式の永久磁石オープン型であり、従来のトンネル型とは異なり、両サイドが開けた圧迫感の少ない構造となっています。そのため、狭いところが苦手な方をはじめ、小児や高齢者など MRI 検査が苦手な方にとっても、リラックスした状態で安心して検査を受けていただけます。

また、当院の MRI 装置は低磁場強度（0.3T）ですが、AI 技術の搭載により、通常の診療・診断に支障のないレベルの高画質を実現しています。さらに最新の高速度ソリューションを搭載しており、高画質を維持したまま短時間での撮像が可能です。これらの技術により、検査時間も短く、患者さまに負担の少ない優しい検査が提供できると考えております。

MRI 装置は、磁気の力を利用することで体の臓器や血管を撮影する検査装置です。そのため、X 線は全く使用せず、放射線による被ばくを気にすることなく検査できることから、様々な病気の早期発見と診断に有効とされています。

頭痛、めまい、高血圧、脂質代謝異常、手足のしびれ、もの忘れなど気になる症状がある方、今まで一度も MRI 検査を受けたことがない方は、ぜひとも当院の MRI 装置で頭部のチェックをしてみたいはいかがでしょうか？ 詳細につきましては、当院の医師までご相談ください。

ただし、以下の方は MRI 検査を受けられません。

- ① 心臓ペースメーカー・埋込み型除細動器がある
- ② 人工内耳・皮膚拡張器・神経刺激装置・可動式義眼（マグネット式）がある
- ③ 1970 年以前の人工心臓弁がある
- ④ 妊娠の可能性あるまたは妊娠 16 週末満

放射線科 北須賀 淑絵



## ～第 37 回 医療公開講座のお知らせ～

日時：令和 7 年 3 月 1 日（土） 9：30～12：00（受付開始 9：00）

場所：安芸津生涯学習センター（あきつ万葉ホール）

内容：「ある日、腸閉塞になったら…腸閉塞について知ろう」副院長（兼）外科主任部長 高島 郁博

「栄養と運動で健康になろう」管理栄養士 瀬尾 洋介・理学療法士 徳山 弘樹

その他、院長を含めた職員によるバンド演奏・転倒なし体操も行う予定です。

※詳細につきましては、院内ポスター、チラシ、ホームページ等でお知らせします。





## 内視鏡室のご紹介



内視鏡検査・治療にまつわる技術革新のスピードには目を見張るものがあります。昨今話題となっているAIの活用もその一つです。当院は皆様にご利用いただく機会の多い上部消化管内視鏡検査（胃カメラ）に、AI技術を活用した内視鏡診断支援機能を導入しました。その他の機器についてもここ数年で大きくパワーアップしましたので、紹介させていただきます。

**AI×内視鏡検査：**内視鏡診断支援機能は、検査中にAIが疑わしいと判断した部位をリアルタイムで検査医に知らせてくれる機能です。検査医とAI、両方の目で観察することで、見落としを 방지、よりスムーズな検査となることが期待できます。

**内視鏡システムとスコープ：**スコープは挿入部（胃や大腸の中に入る管状の部分）がしなやかに進化し、操作性が向上しました。内視鏡システム本体（スコープとつながっている機械）も新しくなり、高い解像度により、クリアな画質で観察することができるようになりました。

**高周波装置：**高周波装置は内視鏡治療に欠かせない機器です。組織に高周波電流を流すことで、ポリープを切除したり、組織を切開したり、出血を止めることができます。当院では、大学病院などでも主戦力として活用されている高性能機種を使用しています。

従来と比較すると、より少ないストレスで、リスクを抑えながら、精度の高い検査・治療を受けていただくことができるようになりました。検査・治療のご希望、ご相談は当院内科へお気軽にお声がけください。



内科・内視鏡内科 楠 真帆

## 早期発見と早期退院で認知機能低下を予防

今年度の4月に、産育休から4階病棟へ復帰しました、認知症看護認定看護師の小早川です。すでに7月に大崎上島の公開講座に登壇しておりますので、ご存じの方もいらっしゃるかもしれません。

病棟に復帰してまず感じたのは、以前よりも認知症を有する患者様が増えていることです。以前は入院患者さんの2割程度だった認知症患者様ですが、最近は半分程度にまで増えています。日本は現在超高齢化社会と言われており、団塊の世代が後期高齢者となる今年の2025年には「高齢者の5人に1人が認知症を有する」と言われています。さらに2040年には、「高齢者の3人に1人が認知症を有する」とも言われており、今後も認知症ケアが非常に重要となっていきます。

認知症は、「あれ？おかしいな？」と感じた時点で早めの治療を始めることにより、進行を遅らせることができ、その人らしい生活を長く続けることができます。本来であれば生活する場ではない病院のような空間では、刺激が少ない状態となり、長く入院すればするほど認知機能低下の要因となります。一方で、自宅や地域で過ごすことは、家事をしたり他者と話をするなど、生活するだけで刺激となり、脳の機能のリハビリに効果的です。また、「その人らしさ」を維持することもできます。地域の方々と関わり、社会的なつながりを継続することが何よりも重要となります。

住み慣れた地域で自分らしく過ごし、認知症の予防と進行防止に努めていきましょう。





## 安芸津の自然と歩む看護の道



こんにちは、4 階病棟で看護師をしています今岡貴久です。普段は看護業務に励みながら、海が近い安芸津の自然の中で、趣味の魚釣りを楽しんでいます。



私の魚釣りの趣味は気づけば35年以上経ちました。小さい頃は投げ釣りでハゼやキスを狙い、現在は船で瀬戸内海の沖に出てアコウなど瀬戸内海の美味しい魚を釣るまでになりました。最近では釣り好きが高じ、自家用車・フェリーを乗り継いで鹿児島県の屋久島まで渡り、南方の大きい魚まで狙うなど充実した日々を送っています。

魚釣りは第一に自然を相手にするものです。気候条件や潮の満ち引き、はては魚の機嫌まで様子を見ながら時間をかけて行います。一方病院では、自然を相手に鍛えた観察能力や忍耐力を用いて、日々看護を行っています。当院の患者様の中には地域の漁師さんたちもおられるため、海の話はコミュニケーションの一つとなり、関係構築に役立っています。



現在私は当院の在宅医療委員会のメンバーとして活動しています。病院の理念として「入院前の生活を取り戻す看護の提供」があり、患者様の多くも自宅への退院を望まれます。私は在宅医療委員会のメンバーとして、患者様宅に退院前訪問に伺うことがあります。実際に住まわれる自宅環境で行動して頂き、生活上の問題点を地域連携室・ケアマネージャーや福祉用具業者と話し合い、患者様の望まれる生活環境に整備することに力を入れています。実際に退院された患者様から、家で上手く生活出来ていることを聞かせて頂くことに喜びを感じて過ごしています。

これからも地域密着型の病院に勤務している看護師として、地域医療の一端を笑顔で担っていききたいと思います。

4 階病棟 看護専門員 今岡 貴久



### 編集後記



新年あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

今年は、「乙巳（きのとみ）」の年です。乙（きのと）は、十干の2番目で「木」の要素を持ち、草木がしなやかに伸びる様子や横へ広がっていく意味があるそうです。また巳（み・へび）は、神様の使いとして大切にされてきた動物で、脱皮を繰り返すことから不老不死のシンボルとされており、その年は、「再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展していく」年になると考えられているようです。

県立安芸津病院は、4 月からは地方独立行政法人広島県立病院機構が運営していくことになります。地域住民に寄り添いながら再生や変化を繰り返し、柔軟に発展していく病院をめざしていきたくと思っています。

さて、3 月に医療公開講座を安芸津生涯学習センターで行います。演者は、副院長の高島医師、理学療法士、管理栄養士を予定しています。講演の合間に「院長バンド」と称して、恒例のギター演奏や歌、転倒なし体操を行いますので、ご近所、ご友人をお誘い合わせの上ご来場ください。

今年も、さらに質の高い医療・看護を提供し、地域の皆様の健康と暮らしを支えられるように取り組んで参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

副院長（兼）看護部長 胡 美恵

